

絆きずな 2号

平成28年4月28日

毎週木曜日は「人権学習の日」です。自分の言動を振り返り、さまざまな人権問題について考えることで、自分を磨いていく日にしましょう。



感謝を伝えようと運動場に書かれた「のみ水ありがとうがんばるけん」の文字



100メートル離れた体育館の避難所に100メートル離れた体育館の生徒に100メートル離れた体育館の生徒

*約千人が避難生活を送る熊本市中央区の江南中で、被災者支援に中学生たちが奮闘している。ごみの片付け、トイレ掃除、高齢者への声掛け。水が足りないときは運動場に白線で「のみ水ください」と書き、実際に飲料水が届いた。地元の若者の頑張りに被災者も勇気づけられている。

*「元気ですか」。19日午前、体育館で食事をしていた高齢の夫婦に中学生2人が声を掛けた。定期的にごみを拾いながら、被災者の体調を確認するための。

*誰に言われたわけでもない。地元の大学生が支援を始めた姿を見て、避難していた江南中の生徒を中心に「自分たちも何かできないか」と自主的に活動が広がったという。自宅で寝泊まりしている生徒たちも加わり、1日に20~30人が避難所で汗を流している。

*夫婦で避難してきた金子信子さん（73）は「避難所生活や地震で緊張が続くけれど、子どもたちの成長を見ると和らぎます」と笑顔。普段は1人暮らしの井上雅子さん（78）は支援物資で菓子が届いたとき、中学生からあめ玉を手渡され「自分たちも大変なのに、優しさを分けてくれて涙が出た」と振り返る。

*熊本市では断水が続き、避難所の水不足も深刻だ。そこで16日には、運動場に「のみ水ください」と白線を引き、上空から見えるようにSOSを発信した。その画像が短文投稿サイト「ツイッター」で広がった。17日夜から、ペットボトルやタンクで飲料水が続々と届き始めたという。

*18日には自衛隊の給水車も初めて到着した。避難所をまとめる江南地区の田上一成自治協議会長（79）は「当初の10倍に増えた。長期的な避難になればまだまだ足りないが、大変ありがたい」と感謝する。

*生徒たちもお礼の気持ちを伝えようと、運動場の白線を「のみ水ありがとう」と書き直し、避難生活を送る大人たちと一緒に「がんばるけん」と付け足した。

*「困っている人が心配」と自宅から毎日通う江南中3年の野崎シエラさん（14）は「地域でお世話になっているばかり。お互いに助け合いたい」と語り、お年寄りたちと笑顔で言葉を交わしていた。

*熊本の被災された方々は、絶え間なくやってくる余震への恐怖と闘いながら、今を一生懸命に生きておられます。私たちも一生懸命生きています。熊本の人たちの様子を読んで感じることに、今の私たちは、何ができるのか。あなた自身の考えを書いてください。

〔感想より〕 1年生

◇中学生、子どももたいへんなのに、高齢の方々に支える力があるんだと思いました。もし、ここで災害があったなら、こんな活動をしたいです。一日でツイッターに広がったことから、どれだけの人が、熊本の人を助けたいかがわかりました。

◇もし、自分の住んでいるところで、地震がきたら、私はずっと怖がっているような気がします。それに、私たちは、水や食べ物を運ぶことはできません。でも、被災者支援はできると思います。具体的には、この中学生のように、ゴミの片付けやトイレ掃除などです。また、高齢者の方に声をかけたり、不安がないように笑顔で、話をしたりすることが、私たちにできる精一杯のことだと思います。

◇水や食料などを、被災地の方はたくさん必要としているので、少しでも早く届けたいと思いました。一人一人が、今何が必要か聞き、それを届けたいです。募金もしたいです。僕も大学生になったら、ボランティア活動をして、少しでも役に立ちたいです。メッセージを送って、熊本の人たちが、少しでも元気になれるようにしたいと思いました。

◇みんな、えらいなあと思いました。自分たちだって、疲れているのに、一生懸命にみんなのために動いているんだと知りました。水が足りないとき、「水をください」と書いて、すごいです。中学生もえらいなあと思いました。みんな、恐怖を抱えているのに、みんなのためにできることをして、少しでも役に立とうとしているところが、すごいです。僕も、こういうことがあったら、やりたいです。

◇「水をください」と白線で書いたことがすごいです。そして、水をもらった後も、ちゃんとお礼の言葉を白線で書いていたことも、すごいです。水を届けた方もうれしくなると思います。地元の中学生も、自分で考え、行動しているのが、とてもすごいと思った。特に、おばあさんやおじいさんに声をかけてあげることで、すごく勇気が出ると思いました。

2年生

◇まず、私は一番に自分が被災者だとしたら、この中学生のように、人から言われる前に、支援ができるかを考えました。たぶん、自分や家族のことで精一杯で、そんなことは考えられないと思います。だから、支援をしている人たちを見習わないと、と思いました。今、私たちにできることは、たくさんあります。例えば、支援できるように物資を送る、募金をする、募金の呼びかけをする。水などを使いすぎない、などのことができると思います。

